
実施事業：	財産保護活動
実施者名：	日本警察消防スポーツ連盟 & 認定 NPO 法人ハート・オブ・ゴールド
助成金額：	500,000 円

実施した事業の内容・成果

災害時、警察や消防などが行う公的部隊の活動は、人命救助活動、行方不明者の緊急捜索ですが、時間の経過とともに収束に近づくと、おのずと活動は縮小され、撤収に向います。そうなると必ず金品を持ち去る目的で窃盗団などが被災地に入り込んできます。そうした中、ボランティアながらも、私たちが警察や消防の看板を背負ったユニホームで活動しているとかなりの防犯効果があります(挙動不審の多くは、私たちの装いを確認すると直ちに立ち去ります)。

また、今回の水害のように、様々な財産や大切な物が汚泥、汚水に浸かってしまった場合、なるべく早い段階で引き上げ、洗浄など適切な処置を講じる必要がありますが、災害現場で倒壊家屋やガレキの中に入り、そうした作業は一般の方では難しいことも多く、また行政により立ち入り禁止となった場所では家主であっても入ることはできません。そのような現場にて、さまざまな財産の掘り起こし作業を警察、消防の現職がボランティアで行います。これが日本警察消防スポーツ連盟の「財産保護活動」です。

今回の西日本豪雨災害では、被災地域が広域であり、且つ複数府県にまたいだことから、近隣の公的な緊急部隊が容易に支援活動に展開できない状況(自らの自治体が被災しているため隣接自治体に多くの隊員を派遣できない)の中、日本警察消防スポーツ連盟の活動をサポートするために、同連盟の協働組織である認定 NPO 法人ハート・オブ・ゴールドでは、岡山県内被災地の行政及び、ボランティアセンター、関係する NPO 団体、組織とコンタクトをとり、各種調整や情報提供を図って参りました。また、両団体の協働活動として、避難所の子ども達と楽しく遊ぶ「子どものケア・プロジェクト」も実施してきました。

日本警察消防スポーツ連盟の「財産保護活動」は、平成30年7月11日から10月15日まで、計39件を実施。具体的には、総社市下原地区でアルミ工場爆発に伴う爆風の被害により破壊された家屋から農機具の取り出し、穴の空いた屋根や壊れた窓ガラスへのブルーシート張り工法、台風対策。真備町では主に、汚泥に埋もれてしまった財産、貴重品の掘り出し、そして浸水した家屋の躯体保護作業と、時間の経過と共に目まぐるしく変化するニーズに全力で対応してきました。

【詳細はこちらから ⇒ <https://yahoo.jp/box/1q-m11>】

日本警察消防スポーツ連盟と認定NPO法人ハート・オブ・ゴールドの協働活動「子どもケア・プロジェクト」では、8月15日と8月16日、倉敷市と総社市内の各避難所にて楽しい“かき氷大会”と“スイカ割り大会”を実施しました。(総社市にあつては、市長もイベントに参加してもらいました。)

【詳細はこちらから ⇒ <https://b ogs yahoo co.jp/kyasa n1964/28681857 htm>】

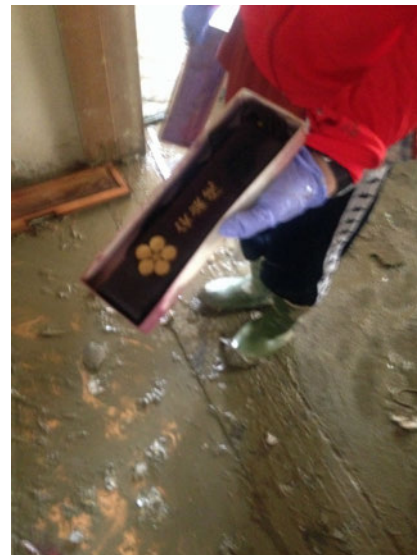
日本警察消防スポーツ連盟の「財産保護活動」及び、認定 NPO 法人ハート・オブ・ゴールドの協働活動「子どもケア・プロジェクト」に、被災された方々からのお礼の言葉や笑顔から、私たち自身がその大きな成果を実感し、災害支援に限らず、今後も「できる人が、できることを、できるかぎり」社会貢献活動を継続して参ります。



権利書の掘り出し



爆風で歪んだシャッターの解体



位牌の掘り出し



爆風で壊れた家の台風養生①



爆風で壊れた家の台風養生②



農機具の取り出し中

決算報告

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

費目		金額 (円)
	ももたろう基金	500 000
収入合計		500 000

費目	算出根拠	金額 (円)	
①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てる費目	滞在費	7名 延べ15日滞在	26 006
	宿泊費	7名 延べ17日宿泊	73 576
	旅費交通費	JR利用 7名 延べ20回	306 570
		自動車利用 4名 延べ4回	42 526
	消耗品費		36 103
	雑費		15 219
		小計	500 000
②その他費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てない費目			
		小計	0

寄付者へのメッセージ

日本警察消防スポーツ連盟は公務員であるが故、いつ発生するか分からない次の災害支援活動の準備として、日頃から準備金を保持することが法規で禁止されていることから、過去の災害支援活動でも、災害発生の際に交通費を含める全ての活動費を隊員個々の持ち出し、仲間のカンパなどで補って参りました。

この度、公益財団法人みんなで作る財団おかやまの「ももたろう基金」を活用し、岡山県の多くの皆さまからご支援をいただくことで、財政的な問題を解消することができました。

私たちの経済的負担の軽減はモチベーションを維持することができ、フットワークの良い活動につなげることができました。真に被災者のために活動し、過去の災害支援活動に例をみないニーズの対応数として大きな成果を上げ、微力ながらお役に立てたものであると考えています。

この度の日本警察消防スポーツ連盟及び、協働した認定 NPO 法人ハート・オブ・ゴールドの活動に対するご理解、ご支援をいただきました全ての皆さまに、心より御礼申し上げますと共に、私たちの存在、活動を広報できたことに対しましても、篤く感謝申し上げます、重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

簡単ではございますが、本文にて御礼の言葉とさせていただきます。

今後の活動

本報告にて日本警察消防スポーツ連盟と認定 NPO 法人ハート・オブ・ゴールドの災害復旧支援活動「財産保護活動」は一区切りが付きませんが、続く災害はいつ発生するか分からず、そしてまた必ずやってきます。

ここ近年世界中で災害が多発しており、言うまでもなく、今年日本では、北は北海道から南は沖縄まで、日本列島の多くの地域で災害が多発しました。そして、この瞬間も尚、被災地で復興への支援活動が続いている方々、団体が多くあります。こうした災害支援活動者や団体を支援する助成システムなくして本当の災害復旧はあり得ず、本来でしたら公的に国や行政が、もう少し幅を広げて手厚く支援すべき対応や動きであるとも思いますが、実際にはできません。

初動にて緊急活動を展開する私たちの同胞、警察や消防なども、被災地では職業人である前に被災者でもあり、身内にも被災者を抱え、しかし責任感や使命感、重い職責から様々なものを犠牲にして職務にあたっている事を知っているからこそ、日本警察消防スポーツ連盟は積極的に被災地と関わり、介入し、活動につなげて参ります。今後も災害が発生する度に災害復旧支援隊を結成し、人の痛みの分かる心を持ち、被災者と目線の高さを合わせ、私たちにしか出来ない、私たちだからこそ出来る「特殊ボランティア活動」を継続し、展開して参ります。